

「黙想会へのお誘い」

主任司祭 吉池 好高

梅雨明けが待ち遠しい季節になりました。夏休みを楽しみにしている子供たちにつられて、大人たちも、休暇の予定をあれこれ思い描く季節です。教会には、この夏、各地で開かれる黙想会のご案内が届いています。こんな休暇の過ごし方もあるのになァー、と独り者の神父は呑気なことを思ったりします。境遇がゆるし、若干のゆとりがあったら、思いきって、どこか涼しそうな修道院の黙想会に申し込んでみたらどうでしょうか。一人で参加することに気後れを感じるなら、気心の知れた友だちを誘って、参加してみてもいいでしょうか。リフレッシュすること請け合いの、とても、ノーブルな休暇の過ごし方だと思うのですが。ちなみに、澤田神父と林神父は、この夏、中軽井沢で開かれる教区司祭の黙想会に出かけます。吉池神父は北海道のトラピストの黙想会に参加する予定です。神父はいいですね。

さて、黙想会で何をするかという、日頃の日常を離れて、信仰の世界にどっぷりと浸かることが黙想会の醍醐味です。

信仰の世界とは、私たちが洗礼を受けて、カトリック信者となることによって生き始めた、私たちにとっては、新しいもう一つの世界です。そこには、私たちがこの新しい世界に誘い、導き入れて下さった、私たちの主イエス・キリストが私たちを待っていてくださいます。福音書の弟子たちのように、イエスのもとに集って、イエスが語られる、私たちにとっては新しいもう一つの世界の眺めを味わうことが黙想会の真骨頂です。イエスが語り聞かせてくださる、その世界には、生きとし生ける全てのものの創造主である、父なる神がおられます。イエスの側に座って、イエスとともに、イエスが語り聞かせてくださる、父なる神が私たちに与えてくださった、全ての恵みの一つ一つを味わい、父なる神への感謝と賛美を捧げるのです。父なる神に捧げる、私たちの最も大きな感謝は、私たちがこの新しい世界に招き入れてくださった、イエス・キリストを私たちの友としてくださったことです。黙想会は、この夏、私たちが帰省すべき本当の実家なのかもしれません。